

第七期第2回豊島区生涯学習推進協議会小委員会報告書

日時：令和5年7月10日（月）10時～12時

会場：庁舎内7階文化商工部会議室

出席者：高井正会長、中上亜樹副会長、齋藤知明委員
岡田、下条

議題：評価を測るには

7月27日の第3回生涯学習推進協議会にむけて、評価を測るためにはどのような話し合いとなればよいのか。

配布資料

第2回豊島区生涯学習推進協議会報告書、としま学びスタイル Vol. 4～7、図書館通信 68号、心理学ゼミ R4 年度最終回ふりかえりのまとめ

1. 大学の評価と社会教育の評価

大学

授業アンケートが実施されており、学生も教員（講師）も評価する側、される側

教員はアンケート結果をどのように受け止めたかを明らかにし、改善策を記載する
社会教育

多様な評価…講師、学習者、講座の企画担当など、それぞれが評価の主体であることから、重層的な評価が可能であることが特色だか、あまり実施されてはいない。

2. 『豊島区生涯学習推進ビジョン』から

P16～18 施策の体系図…行政評価的なもの

P20～25 としま学びスタイルの実現に向けて…質的評価に近い

P20～25 取組み1～3

P20 としま学びスタイルの担い手を増やし広げる

どういう学びが継続しているのか

ブックカフェ

- ・日常的な居場所として何が生まれたのか、何が課題なのか、コーディネーター自身の変化や力量形成などの質的評価がもとめられるのではないか。
- ・サポートを受けた当事者が、一連の流れをふり返ることで、やりたいことを実現するための企画から実施まで、サポートの流れも評価できるのではないか。

P22 学んだ成果を発信する機会を広げる

団体や組織の学びを、数年間のスパンでふり返ることで、活動や取り組み、自身の変

化を語ることで質的な評価が可能になるのではないか。

P24 多様なネットワークを重ねて広げる

学習者の振り返りと学習者の評価、講師側の振り返りと評価、これらに企画担当者の評価を重ね合わせることで、見えてくることがあるまでではないか。

取り組み1～3の6つの項目について

評価の主体は学習者自身。評価の精度や客観性を高めていくために、関係者によるインタビューが必要ではないか。

6つの項目に、6人の事例を挙げて、書いてもらうのはどうか・・・①

3. 3月27日に行われた第2回豊島区生涯学習推進協議会での

「(としまコミュニティ大学で学ぶ) マナビト生の学びとして、講座へ行き評価を実践してみる。」について・・・②

評価する営み自体が学習となる可能性があり、振り返る機会にもなる

選択と記述方式

観点を統一する

2つの方法で評価するのはどうか

① 6つの項目にあてはまる事例を挙げて、6人に書いてもらう

<例> ゼミ活動経験者による中期的な振り返り

ブックカフェにおいてサポートを受けつつ、活動を展開した経験者

② マナビト生の学びとして、講座へ行き、評価を実践してみる

観点…見る時の視点

<例>

聞きやすい話し方だったか

資料は分かりやすかったか

質疑応答の時間は確保されていたか

自分にとって新しい考え方・発想を得ることができたか

学習内容の量は適切だったか

学習のねらいは明確だったか

指標…具体的に数字などで測るもの

<例>

申し込み者数

参加者数

養成講座終了後の登録者数

参加者のアンケート結果で示された数値

4. 【第3回豊島区生涯学習推進協議会】開催に向けて

委員の皆様のご意見をお願いします。

「指標を考える」

『豊島区生涯学習推進ビジョン』第2章、第3章から、何をどう測ればよいのかと考えられる指標は、「② マナビト生の学びとして、講座へ行き、評価を実践してみる」を参考にしながら、どのような質問事項がよいのかを箇条書きで書き出してくださるよう、お願いいたします。

考えていただいたご意見は、ワードで作成、メールに直打ち、FAXなどで、7月24日(月)までに、学習・スポーツ課の下条までお送りください。

委員の皆様からのご意見はまとめて、会議開催前にお送りし共有します。

また、追加のご意見は会議でもお聞きしますので、よろしくお願いいたします。

大正大学の授業評価アンケートが公開されているので参考にしてくださいと、齋藤委員から情報提供がありました。

https://tais.ac.jp/common/doc/guide/estimation/2017_b_5.pdf